

一九四二年度の立命館大学教員名簿

伊藤 武夫

〔解題〕

第二次世界大戦中の立命館大学の歩みを振り返ると、一九四二（昭和一七）年度は戦時下における大幅な学制改革が実施に移された年であり、本学の戦前の歴史のなかでも重要なエポックを画する年であった。

大学関係の学制改革のみに限ってみても、法文学部では従来 of 各学科名称に「東亜」が冠せられ、それぞれ東亜法政学科・東亜経済学科・東亜文学科となり、東亜文学科には新たに「国体学科」が新設された。この学科編成は一九四二年度から一九四五年の終戦までの四年間存続した。大学予科は四一年度に一旦、廃止した三年制が復活した。また、日満高等工科学校は専門学校に正式に移行して立命館大学専門学部工学科（昼間・三年制）となり、あわせて理学科（夜間・三年制）が新設された。これらの学制改革は、いずれも本学の戦時的体制への対応を示すものであるが、そうした姿をとりつつ大学組織としては、戦前では最も充実した内容を備えるに至ったのも事実である。ここでは、この年度に焦点をあてて、当時の本学の教員構成を明らかにする史料を紹介することとしたい。

表1-(1) 立命館大学の1942年度 学科別・学年別学生数

学部等		学科名等	1学年 定員	在 校 生 数			卒業生数 (42年3月)	
				1学年	2学年	3学年		計
法 文 学 部	第一部	新、法政学	160	86	58	60	204	52
		政政学		—	—	16	16	8
		新、経済学		106	164	92	362	42
		商学		—	—	6	6	5
	小計	160	192	222	174	588	107	
	第二部	新、法政学	80	40	107	74	221	74
		政政学		—	—	31	31	6
		新、経済学		40	59	60	159	18
		商学		—	—	15	15	2
	小計	80	80	166	180	426	100	
文学部	新、文学科	80	23	26	1941年度新設	26	卒業生無シ	
	史学		—	7		7		
	漢文学		22	24	1942年度新設	24		
	国文学		22	15		15		
小計	80	80	72	72				
法学部	文部総計	320	352	460	354	1,086	207	
大学 予科	第一部	二三年制	(160)	廃止	旧 190	—	190	145
		三三年制	160	新 160	—	旧 45	205	59
		小計	160	160	190	45	395	204
	第二部	二三年制	(160)	廃止	旧 172	—	172	49
		小計	160	160	172	—	160	—
大学予科	大学予科総計	320	320	362	45	727	253	

一、一九四二・四三年度の学部
・学科編成

戦時下における立命館大学の大幅な拡充は、一九四一年度からはじまっていた。大学部はこの年度から法経学部が法文学部と名称変更し、従来の法律学科と政治学科は統合して法政学科(一部・二部)となり、また商学科は経済学科(一部・二部)に統合し、新たに文学科(二部)が新設された。さらに専門学部も法政学科(法律科・経済科)、文学科、高等商業科に統合され、立命館日満高等工科大学の学科再編成が進められた。この学則改正とともに「学則」の通則の個所に、「本学建学の本義は本学伝統の立命館の禁衛隊の精神に在りとす」と明記し、「我国国体並びに日本精神の真義」を教学方針

表1-2) 立命館大学の1942年度 学科別・学年別学生数

学部等	学科名等	1学年 定員	在 校 生 数				卒業生数 (42年3月)	
			1学年	2学年	3学年	計		
専 一 部	法律学科			56	40	96	26	
	経済学科			廃止	83	70	153	
	高等商業科	100	100	138	115	353	126	
	新、法政学科	100	100	1942年度新設		100	—	
小	計	200	200	277	225	702	214	
門 二 部	法律学科			廃止	157	124	281	
	経済学科			廃止	173	151	324	
	新、法政学科	250	110	1942年度新設		110	—	
	新、経済学科		140	1942年度新設		140	—	
小	計	250	250	330	275	855	199	
学 一 部	国語漢文科	65	65	71	48	184	36	
	地理歴史科	65	65	78	51	194	42	
	小	計	130	130	149	99	378	78
	機械工学科	100	109	62	1942 年度 新設 ニヨリ 無シ	171	卒業	
電気工学科	50	58	35	93		生		
応用化学科	50	56	33	89		無		
採鉱冶金学科	100	105	57	162		シ		
小	計	350	381	220	601			
部 二 部	数学科	50	50	1942年度新設	50	卒無		
	物理科	50	50		50	業		
	化学科	50	50		50	生シ		
小	計	150	150		150			
専 門 学 部 総 計		1,080	1,111	976	599	2,686	491	

註 1) 別科・聴講生無し。第一部は日間部、第二部は夜間部。

2) 大学予科二年制の入学定員欄の()内は、旧学則の定員。

3) 専門学部第一部工学科5学科は1942年4月からの開設であるが、第2学年は日滿高等工学校第2学年の編入生である。各学年の在校生数には前年度の落第生数を含む。

(出所) 財団法人立命館『法人経理並に学事状況調査に関する書類』(綴)

のなかに徹底したことは、すでに別稿で指摘した通りである。¹⁾冒頭に述べた学制改革は、その一年後のことであった。

一九四二年度の立命館大学の学科編成と学生定員ならびに教員構成を詳細に記録した史料として、財団法人立命館の事務局が一九四三年九月に作成した『法人経理並に学事状況調査に関する書類』(綴)がある。これは文部省高等教育局から指示された調査項目について、あらかじめ定められた報告様式に従って記載されたもので、当時の状況を知ることのできる数少ない一次史料の一つである。

この文書綴のなかの「学生生徒

表2-1) 立命館大学の1943年度 学科別・学年別学生数

(1943年5月1日現在)

学部等	学科名等	1学年 定員	在 校 生 数				卒業生数 (43年3月)	
			1学年	2学年	3学年	計		
法 文 学 部	新、法政 新、政経 新、政治 商学	160	119	81	101	301	65	
			—	—	—	—	17	
			190	136	172	498	102	
	小計	160	309	217	273	799	191	
	新、法政 新、政経 商学	80	44	42	109	195	48	
			—	—	—	—	14	
			51	43	57	151	34	
	小計	80	95	85	166	346	106	
	新、史学 漢文 国文学 地理 国体 文学	80	20	20	18	58	卒無 業 生シ	
			廃止	8	8	8		
			20	20	10	50		
			18	20	14	28		
17			11	—	28			
小計	80	75	71	50	196			
法文学部	総計	320	479	373	489	1,341	297	
大 学 予 科	第一 二 三 年	制 制 (160)	160	178	—	—	178	259
			廃止	166	—	166	旧制 39	
			小計	160	178	166	—	344
	第二 三 年	制 制 (160)	160	177	—	—	172	94
			廃止	115	—	115	—	
小計	160	177	115	—	287	94		
大学予科	総計	320	355	281	—	631	392	

数調（最近三ヶ年間）によって、一九四二年度と四三年度の学科別学生数を一覧にしたものが表1、2である。法文学部の入学定員は第一部、第二部それぞれ一六〇名で、昼間部と夜間部の入学定員は同数であった。大学予科の入学総定員も同じ一六〇名づつであるが、ただ注意しなければならないのは、四三年度になると再び三年制が廃止されて二年制に戻っていることである。予科の教育制度は年毎に二転、三転したことになる。⁽²⁾法文学部の学科名が、この文書では「新、法政学科」などの名称で記載されているが、当然、それは「東亜法政学科」、「東亜経済学科」と「東亜文学科」のことである。ただ、この表を一見すればわかるように、一九四〇年度まで設置されていた学科の

表2-(2) 立命館大学の1943年度 学科別・学年別学生数

学部等	学科名等	1学年 定員	在 校 生 数				卒業生数 (43年3月)
			1学年	2学年	3学年	計	
専 門 部 第一 部	新、法政学科	100	127	130	67	324	38
	経済学科		廃止	旧	103	103	67
	高等商業科	100	116	115	159	390	119
	小計	200	243	245	329	817	224
専 門 部 第二 部	新、法律学科	250	143	103	185	431	120
	経済学科		145	109	192	446	148
	小計	250	288	212	377	877	268
	国語漢文科	65	65	44	54	163	44
	地理歴史科	65	65	46	44	155	44
	小計	130	130	90	98	318	88
専 門 部 第三 部	機械工学科	100	105	91	62	258	卒業
	電気工学科	80	80	39	37	119	生
	応用化学科	80	80	41	42	121	無シ
	採鉱冶金学科	100	104	98	47	202	
	建築工学科	80	84	45	30	129	
	小計	440	453	314	218	829	
専 門 部 第四 部	数学科	50	46	1943年度新設		46	卒業
	物理学科	50	48		48	無	
	化学科	50	51		51	生シ	
	小計	150	145			145	
専 門 部 第五 部	数学科	50	58	11	1942年度新設	69	卒業
	物理学科	50	61	22		83	生シ
	化学科	50	67	28		95	
	小計	150	186	61		247	
専 門 学 部 総 計		1,320	1,445	922	1,022	3,233	580

註 1) 1943年5月1日現在調べのものとみて間違いない。

2) 法文学部の1943年度学生募集は9月と注記。また、第一部経済学科の第1学年190名は「予科ヨリ」と記載。

3) 大学予科入学定員欄の()内は、旧学期の定員。

4) 各学年毎に「兵休者」数の記載があるが、ここでは省略。

(出所) 財団法人立命館『法人経理並に学事状況調査に関する書類』(綴)

二学生が四二年度には第三学年に残っていて、「学生生徒数調」はそれとの関係も視野にいたれたかたちで従来の学科名をもとに一覧表を取りまとめたのではないかと思われる。

四三年度からは、専門学部の第一部に理学科(数学・物理・化学の三学科)が新設され、理工学系の専門学部の入学生定員は、一部五〇〇名、二部一五〇名、合計七五〇名と極めて大規模なものとなった。

なお、在校生数は「兵休者」等を含む総数である。「兵休者」等は同じ文書綴りながらの統計で異なった数値が

記載されているものもあり、これが正確な統計とはいえず、学徒動員以前に兵役に赴いた学生等の調査は、他の機会により詳細に検討することとし、ここでは表記せず省略した。

二、教員名簿

一九四二年四月以降の新しい教学体制のもとで、専任教員と兼任教員がどのような構成になっていたかを確かめるため、この文書綴の「教員調」を整理し、以下に表示した。大学部と同予科は一九四二年四月二〇日現在、専門学部については翌四三年四月二〇日現在の在籍者の名簿である。

すでに五〇年以上前の記録であり、各教員の出身校と卒業年月を知る極めてまれな残存史料なので、原史料の忠実な再現に努めた。ただし、生年月日、大学の卒業年月などにおいて、誤記とも思われるものも少なからず見受けられる。他の資料などで確認できるものは訂正したが、その作業はまだ完了しておらず、今後、より正確な教員名簿に作り上げてゆきたい。

注

(1) 拙稿「立命館日満高等工科大学校―理工学部前史の一齣―」、『立命館百年史紀要』第二号、一九九四年三月、所収、六五頁以下参照。

(2) 一九四三年度には大学予科が再び二年制となったことは、立命館史編纂委員会『立命館八五年史略年表』（一九八五年一月）の一九頁、一九四二年三月三十一日の項に記載されており、本稿の表2の記載内容からも、それを読みとることができる。ただし、当時の学制変更の推移については、現在も百年史編纂室において調査中であり、いずれより正確な記録がまとめられるであろう。

財団法人立命館 教員名簿

I. 立命館大学法文学部 昭和17 (1942) 年 4 月20日現在

(1) 法文学部 専任教員の部

氏名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授業 時数	最 終 学 歴	採用認可年月日
板 木 郁 郎 明治32年 5 月	島 根	民法(総則 親族・相続・ 特別講義)	12	大正12年 3 月 京都帝国大学法学部	大正12年10月 7 日
磯 崎 辰五郎 明治31年 4 月	香 川	行 政 法	12	大正13年 3 月 京都帝国大学法学部	大正15年 3 月 2 日
末 包 留三良 明治24年12月	香 川	海 商 法 信 託 法	12	大正 8 年 7 月 京都帝国大学文学部 大正11年 3 月 同 法学部	大正15年 3 月21日
井 上 次 郎 明治31年 9 月	秋 田	経 済 地 理 商 業 経 済 国 際 経 済 論	14	大正14年 3 月 京都帝国大学経済学部	昭和 2 年 4 月 5 日
太 田 義 夫 明治28年 5 月	京 都	経 済 原 論	12	昭和 3 年 3 月 京都帝国大学経済学部	昭和 3 年 3 月 3 日
井 上 巖次郎 明治34年 7 月	愛 知	工 業 経 済	8	大正14年 3 月 京都帝国大学経済学部	昭和 3 年 4 月 7 日
大 谷 政 敬 明治29年 9 月	鳥 取	財 政 学	12	昭和 3 年 3 月 京都帝国大学経済学部	昭和 4 年 4 月 6 日
大 淵 仁右衛門 明治38年 4 月	秋 田	国 際 法	12	昭和 5 年 3 月 立命館大学法経学部	昭和 7 年 4 月11日
田 中 直 吉 明治40年 1 月	兵 庫	外 交 史 国 際 政 治 論	14	昭和 6 年 3 月 京都帝国大学法学部	昭和 9 年 4 月12日
浅 井 清 信 明治35年10月	愛 知	統 制 法 民 法 (債権・物権)	12	大正15年 3 月 京都帝国大学法学部	昭和 9 年 4 月12日
森 順 次 明治41年 9 月	石 川	国 体 学 (憲 法)	12	昭和 8 年 3 月 京都帝国大学法学部	昭和 9 年 4 月12日
竹 田 直 平 明治33年 8 月	新 潟	刑 法	6	昭和 6 年 3 月 立命館大学法経学部	昭和 9 年 4 月12日

和田三良 明治37年1月	長野	経済史 経済思想史	10	昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和13年6月30日
吉富重雄 明治42年2月	長崎	政治学 国家政策学	10	昭和9年3月 京都帝国大学法学部	昭和13年6月30日
淵定 明治42年3月	大分	日本法制史	14	昭和8年3月 京都帝国大学法学部	昭和13年6月30日
西藤雅夫 明治41年3月	滋賀	保険論	8	昭和7年3月 京都帝国大学経済学部	昭和13年8月3日
祭原光太郎 明治40年2月	大阪	簿記論 工業及び銀行簿記 経営学	12	昭和6年3月 京都帝国大学経済学部	昭和15年7月12日
長岡富三 明治44年12月	京都	商法(手形・ 会社)	12	昭和10年3月 立命館大学法経学部	昭和15年7月12日
森義宣 明治45年3月	岡山	政治史 政治思想史	20	昭和10年3月 京都帝国大学法学部	昭和16年6月18日
高瀬重雄 明治42年3月	富山	国史学	8	昭和7年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
里見岸雄 明治30年3月	東京	国体学 (憲法)	4	大正9年3月 早稲田大学文学部哲学	昭和16年9月15日
太田亮 明治17年7月	東京	国史学	12	明治42年3月 神宮皇学館	昭和16年9月15日
橋本循 明治23年6月	福井	国文学	4	大正7年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
浅田善二郎 明治37年9月	京都	国文学	2	昭和3年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
白柳武司 明治17年1月	東京	国史学 日本民族史	4	明治40年4月 早稲田大学文学部	昭和16年9月15日
武藤守一 明治43年5月	岐阜	貨幣論	8	昭和11年3月 立命館大学法経学部	昭和16年9月15日
大山敷太郎 明治35年12月	愛知	経済史 日本経済史	8	昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和16年9月19日
松岡又一 明治31年10月	石川	地政学 移植民論	8	昭和3年3月 東北帝国大学法文学部	昭和16年11月16日

高瀬 武次郎 明治元年10月	京 都	支那哲学	2	明治33年9月 東京帝国大学文科大学	昭和16年3月31日
今西 錦 司 明治35年1月	京 都	自然地理学	2	昭和3年3月 京都帝国大学理学部 理学博士	昭和17年6月17日 (目下手続中)
中川 精 次 大正4年8月	京 都	教 練	6	陸軍中尉	昭和17年6月17日 (目下手続中)
林 栄次郎 明治32年10月	滋 賀	教 練	6	陸軍准尉	昭和17年6月18日 (目下手続中)
山崎 靖 純 明治27年6月	京 都	東亜共栄圏 論	4	大正8年4月 慶応義塾大学理財科	昭和17年7月1日 (目下手続中)

(2) 法文学部 兼任教員の部

氏 名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授業 時数	*印 現 職 名 最 終 学 歴	採用認可年月日
竹 田 省 明治13年9月	石 川	商 法 特別講義	4	*弁護士 明治39年7月 京都帝国大学法科大学 法学博士	大正15年3月3日
山 田 正 三 明治15年12月	東 京	民事訴訟法	4	*京都帝国大学教授 明治42年7月 京都帝国大学法科大学	大正15年3月3日
串 本 友三郎 明治19年8月	大 阪	金 融 論	2	*立命館商業学校学監 明治42年3月 早稲田大学政経学部 ドクトル・デア・ポール	昭和2年4月5日
大 隅 健一郎 明治37年9月	愛 知	私 法 特別講義	4	*京都帝国大学教授 大正3年3月 京都帝国大学法学部	大正4年5月20日
八 木 芳之助 明治28年2月	京 都	農 業 経 済	4	*京都帝国大学教授 大正10年3月 京都帝国大学経済学部 経済学博士	昭和7年4月8日

末川博 明治25年11月	山口	民法(債権)	4	*大阪商科大学講師 大正10年3月 京都帝国大学法学部 法学博士	昭和8年10月5日
田村徳治 明治19年7月	秋田	行政学	2	*関西学院大学教授 大正5年7月 京都帝国大学法学部 法学博士	昭和9年5月9日
恒藤恭 明治21年12月	東京	法理学	2	*大阪商科大学教授 大正5年7月 京都帝国大学法学部 法学博士	昭和9年5月9日
吉川大二郎 明治34年1月	京都	民訴 破産法	12	*弁護士 大正13年3月 京都帝国大学法学部	昭和10年3月4日
静田均 明治35年1月	山形	経済政策	4	*京都帝国大学助教授 昭和2年3月 京都帝国大学経済学部	昭和15年6月18日
黒田覚 明治23年2月	滋賀	政治学特別 講義	4	*京都帝国大学教授 大正12年3月 京都帝国大学法学部	昭和16年9月15日
清水泰 明治27年1月	山梨	国文学	6	*本学専門学部教授 大正14年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
岩根保重 明治33年1月	山口	人文地理学	6	*本学専門学部教授 昭和5年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
三島泰治 明治34年11月	大阪	哲学 独語	6	*本学専門学部教授 昭和4年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月15日
蜷川虎三 明治30年2月	東京	統計学	6	*京都帝国大学教授 大正12年3月 京都帝国大学経済学部	昭和16年9月19日
内田吟風 明治40年4月	東京	東洋史学	4	*京都帝国大学助手 昭和6年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月19日

原 隨 圓 明治27年3月	愛 知	国史概論	2	* 京都帝国大学教授 大正6年7月 東京帝国大学文科大学	昭和16年9月19日
井 上 智 勇 明治39年5月	兵 庫	西洋史学	4	* 京都帝国大学講師 昭和5年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月19日
高 田 保 馬 明治16年12月	佐 賀	社会学	2	* 京都帝国大学教授 明治43年7月 京都帝国大学文科大学 文学博士	昭和16年9月19日
佐 藤 新 一 明治23年11月	東 京	日本思想論	4	* 山崎経済研究所員 明治44年 東京外国語学校中退	昭和17年7月15日 (目下手続中)
永 井 栄 蔵 明治14年9月	兵 庫	経済特別講義 日本経済史 特別講義	4	* 本学専門学部兼務 大正元年10月 東京帝国大学経済学部	昭和17年6月18日 (目下手続中)
重 松 俊 明 明治38年9月	福 岡	社会学	2	* 本学専門学部兼務 昭和5年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年5月19日 (目下手続中)
濱 田 敦 大正2年8月	京 都	国語学	2	* 本学専門学部兼務 昭和14年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年5月19日 (目下手続中)
加 藤 順 三 明治18年9月	大 阪	国文学	2	* 本学専門学部講師 大正7年3月 京都帝国大学文学部選科	昭和17年6月17日 (目下手続中)
木 村 英 一 明治39年2月	京 都	漢文学	2	* 京都帝国大学副手 * 本学専門学部講師 昭和7年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)
室 賀 信 夫 明治40年1月	静 岡	人文地理学	4	* 京都帝国大学助教授 * 本学専門学部講師 昭和8年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)

本田成之 明治15年1月	京都	漢文学	4	*龍谷大学教授 * 本学専門学部講師 大正2年10月 京都帝国大学文科大学 文学博士	昭和17年6月17日 (目下手続中)
遠藤嘉基 明治38年5月	鳥取	国語学	4	* 昭和5年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)
松下進 明治36年3月	京都	自然地理学	2	*京都帝国大学教授 大正5年3月 京都帝国大学理学部 理学博士	昭和17年6月18日 (目下手続中)
織田武雄 明治40年6月	東京	人文地理学	2	*関西大学教授 * 本学専門学部講師 昭和7年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)
矢野仁一 明治5年5月	京都	東洋史学	4	*京都帝国大学名誉教授 明治32年7月 東京帝国大学文科大学 文学博士	昭和17年6月18日 (目下手続中)
小田垣成夫 明治38年1月	京都	会計学	4	* 本学専門学部教授 昭和5年3月 東京商科大学	昭和17年6月17日 (目下手続中)
上野久哉 明治41年1月	富山	特殊経営学	4	* 本学専門学部教授 昭和6年3月 東京商科大学	昭和17年6月17日 (目下手続中)
野田喜太郎 明治41年8月	兵庫	商業数学	4	* 本学専門学部教授 昭和7年3月 神戸商業大学	昭和17年6月17日 (目下手続中)
丸谷秀一 明治45年5月	北海道	外国貿易及 び為替	2	* 本学専門学部教授 昭和11年3月 神戸商業大学	昭和17年6月17日 (目下手続中)
酒井鎬次 明治18年2月	東京	戦争史	4	* 参謀本部顧問 * 陸軍中將	昭和17年6月29日 (目下手続中)
伊藤政之助 明治10年8月	東京	戦争史	4	* 陸軍少將	昭和17年6月18日 (目下手続中)

佐保田 鶴 治 明治32年2月	兵 庫	倫 理 学	6	* 本学予科教授 大正11年7月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)
--------------------	-----	-------	---	----------------------------------	-----------------------

Ⅱ. 立命館大学予科 昭和17年4月20日現在

(1) 予科 専任教員の部

氏 名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授業 時数	最 終 学 歴 (* : 兼任)	採用認可年月日
佐保田 鶴 治 明治32年2月	兵 庫	哲 学 外 国 語	22	大正11年7月 京都帝国大学文学部	大正12年4月5日
清 水 泰 明治29年1月	山 梨	国 語	4	大正14年3月 京都帝国大学文学部	大正14年4月8日
塩 崎 達 人 明治26年12月	京 都	道義・哲理	28	大正7年7月 京都帝国大学文学部	昭和7年4月9日
山 本 保 明治40年1月	兵 庫	外国語(英)	21	昭和4年3月 関西学院大学文学部	昭和10年4月14日
薦 田 久 規 明治35年8月	愛 媛	外国語(独)	24	昭和4年3月 京都帝国大学文学部	昭和13年6月30日
福 本 喜之助 明治36年8月	大 阪	外国語(独)	22	昭和7年7月 高等教員検定試験合格	昭和13年6月30日
奥 村 三 舟 明治41年1月	三 重	外国語(英)	28	昭和10年11月 高等教員検定試験合格	昭和14年5月2日
国崎 望久太郎 明治43年4月	福 岡	古 典	14	昭和11年3月 東洋大学文学部	昭和15年7月11日
大地原 誠 玄 明治16年2月	東 京	自 然 科学	14	明治43年7月 東京帝国大学理学部 大正8年7月 京都帝国大学文科大学	昭和15年7月31日
石 崎 達 二 明治33年11月	北 海 道	歴 史	21	大正15年3月 大谷大学	昭和15年7月31日
中 島 利 夫 明治37年7月	大 阪	支 那 語	13	昭和4年3月 東京大学文学部	昭和16年9月15日

田中重太郎 大正6年7月	京都	古典	17	昭和15年3月 高等教員検定合格	昭和16年9月19日
城内辰尾 明治25年8月	大分	経国	10	大正15年3月 大分県師範(奏任待遇)	昭和16年9月19日
永安登一 明治42年3月	島根	外国語(独)	12	昭和9年3月 九州大学法学部	昭和16年7月19日
原田季清 明治44年11月	兵庫	古典	13	昭和8年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月18日 (目下手続中)

(2) 予科 兼任教員の部

氏名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授業 時数	*現 職 最 終 学 歴	採用認可年月日
浦川源吾 明治24年7月	大分	古典	6	* 大正6年7月 京都帝国大学文科大学	昭和3年4月7日
太田義夫 明治28年5月	京都	経済	4	*立命館大学教授 昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和16年9月15日
西井克巳 年月	大阪	歴史	4	* 昭和8年3月 京都帝国大学文学部	昭和16年9月19日
久保澄雄 年月	和歌山	銃剣道	6	*本学専門学部講師 槍術範士・銃剣道五段 錬士	昭和17年6月18日 (目下手続中)
柳生巖長 明治24年1月	愛知	剣道	6	*本学専門学部講師 大正4年3月 早稲田大学高等師範部	昭和17年6月17日 (目下手続中)
永井浩次 明治36年6月	大阪	自然科学 (数 学)	4	*龍谷大学教授 昭和7年3月 京都帝国大学理学部	昭和17年5月19日 (目下手続中)
陳 毓 民国7年6月	中華民国	外国語	4	民国31年3月 国立北京師範・教育学院	昭和17年5月19日 (目下手続中)
張 權 民国7年7月	中華民国	外国語	10	民国31年3月 国立北京師範・文学院	昭和17年5月19日 (目下手続中)

陰 蘊 中 民国7年11月	中華民國	外 国 語	10	民国31年3月 国立北京師範・文学院	昭和17年5月19日 (目下手続中)
呉 守 禮 明治42年3月	台 湾	外 国 語	4	昭和8年3月 台北帝国大学文政学科	昭和17年5月19日 (目下手続中)
石 井 義 仁 大正5年3月	德 島	自 然 科 学	2	昭和16年3月 京都帝国大学理学部	昭和17年6月29日 (目下手続中)
中 田 勇次郎 明治38年1月	京 都	古 典	6	昭和10年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月17日 (目下手続中)

Ⅲ. 立命館大学専門学部 昭和18年4月20日現在

(1) 専門学部 法・経・高等商業・文の各学科 専任教員の部

氏 名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授業 時数	最 終 学 歴	採用・開申年月日
板 木 郁 郎 明治32年5月	島 根	民法(総則)	4	大正12年3月 京都帝国大学法学部	大正13年10月7日
磯 崎 辰五郎 明治31年4月	香 川	行政法(総論) 行政法(各論)	8	大正13年3月 京都帝国大学法学部	大正15年3月3日
末 包 留三良 明治24年12月	香 川	商 法 海 商 法	4	大正8年7月 京都帝国大学文学部 大正11年3月 同 法学部	大正15年3月8日
太 田 義 夫 明治28年5月	京 都	経 済 原 論	4	昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和3年3月3日
井 上 巖次郎 明治34年7月	愛 知	厚生政策	8	大正14年3月 京都帝国大学経済学部	昭和3年4月4日
井 上 次 郎 明治31年9月	秋 田	国際経済論	8	大正14年3月 京都帝国大学経済学部	昭和3年4月5日
清 水 泰 明治27年1月	山 梨	上代文学 近世文学等	8	大正14年3月 京都帝国大学文学部	昭和3年4月7日
橋 本 循 明治23年6月	福 井	修詩文・詩経 支那文学史	8	大正7年3月 京都帝国大学文学部選科	昭和3年4月7日

大谷政敬 明治29年9月	鳥取	財政汎論	4	昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和4年4月6日
大淵仁右衛門 明治38年4月	秋田	国際私法	4	昭和5年3月 立命館大学法経学部	昭和7年4月18日
祭原光太郎 明治40年2月	大阪	経営経済学	2	昭和6年3月 京都帝国大学経済学部	昭和8年6月3日
田中直吉 明治40年1月	兵庫	戦争史	4	昭和6年3月 京都帝国大学法学部	昭和9年4月12日
竹田直平 明治33年8月	新潟	刑法(総論) 刑法(各論)	8	昭和6年3月 立命館大学法経学部	昭和9年4月12日
浅井清信 明治35年10月	愛知	民法(物権)	4	大正15年3月 京都帝国大学法学部	昭和9年5月4日
森順次 明治41年9月	石川	国体学概論 帝国憲法	4	昭和8年3月 京都帝国大学法学部	昭和9年5月4日
小田垣成夫 明治38年1月	京都	会計学・簿記論・経済統制論	8	昭和5年3月 東京商科大学	昭和11年7月1日
国崎望久太郎 明治43年4月	福岡	古今集・枕草紙・近古文学	11	昭和11年3月 東洋大学文学部	昭和11年8月22日
太田亮 明治17年7月	東京	国史	8	明治42年3月 神宮皇学館	昭和12年7月5日
吉富重雄 明治42年2月	長崎	政治学概論 国防学概論	8	昭和9年3月 京都帝国大学法学部	昭和13年6月30日
西藤雅夫 明治41年3月	滋賀	銀行信託論 臣道実践 東亜経済	8	昭和7年3月 京都帝国大学経済学部	昭和13年6月30日
三島泰治 明治34年11月	大阪	心理学・哲学概論・教育学	22	昭和4年3月 京都帝国大学文学部	昭和13年6月30日
岩根保重 明治33年1月	山口	自然地理・アメリカ地誌 日本地誌等	16	昭和5年3月 京都帝国大学文学部	昭和13年6月30日
中島利夫 明治37年7月	大阪	支那語	8	昭和4年3月 東京帝国大学文学部	昭和14年8月20日

高瀬重雄 明治42年3月	富山	国史 史学概論 史学研究法	16	昭和7年3月 京都帝国大学文学部	昭和14年8月2日
山本経 明治33年3月	京都	英語	20	昭和5年3月 同志社大学文学部	昭和15年6月4日
今井啓一 明治38年8月	京都	東洋史 漢文神祇史	25	昭和3年3月 神宮皇学館	昭和14年10月25日
上野久哉 明治41年1月	富山	経営学・会計 商業概論 特研指導	18	昭和6年3月 東京商科大学	昭和15年5月18日
野田喜太郎 明治41年8月	兵庫	統計学・商業 数学・英語	15	昭和7年3月 神戸商業大学	昭和15年5月18日
藤岡謙二郎 大正3年4月	京都	地理実習 人類地理 西洋史等	10	昭和13年3月 京都帝国大学文学部	昭和15年5月18日
長岡富三 明治44年12月	大分	商法・会社法 商法総則等	8	昭和10年3月 立命館大学法経学部	昭和15年6月4日
淵定 明治42年3月	大分	日本法制史	4	昭和8年3月 京都帝国大学法学部	昭和15年6月4日
森義宣 明治45年3月	岡山	東亜民族史 東亜政治思想 史	8	昭和10年3月 京都帝国大学法学部	昭和16年6月18日
後藤丹治 明治30年3月	三重	戦記物・大鏡 国文学史 文学史	9	昭和13年3月 京都帝国大学文学部 選科	昭和16年9月15日
一井修 明治年月	京都	広域経済	4	昭和8年3月 大阪商科大学	昭和16年9月15日
武藤守一 明治43年5月	岐阜	貨幣論 銀行信託論 農業政策	8	昭和11年3月 立命館大学法経学部	昭和16年9月15日
大山敷太郎 明治35年12月	愛知	経済史	4	昭和3年3月 京都帝国大学経済学部	昭和16年9月19日
松岡又一 明治31年10月	石川	移植民論	4	昭和3年3月 東北帝国大学法文学部	昭和16年11月6日

川上 三郎 明治45年7月	鳥取	農業政策・交通論・産業概論・商品学	20	昭和14年3月 立命館大学専門学部	昭和17年6月17日
大橋 又治郎 明治22年5月	滋賀	教 練	6	陸軍少尉	昭和17年6月17日
出雲路 敬和 明治41年3月	京都	神 祇 史 有 職 故 実	6	昭和9年3月 國學院大学	昭和13年4月20日
岡井 嘉一郎 明治32年4月	京都	教 練	6	陸軍の少尉	昭和8年10月25日

(2) 専門学部 理・工学科 専任教員の部

本野 亨 明治12年6月	京都	電気材料 [工学科長]	2	明治35年 月 京都帝国大学理工科大学(工学博士)	昭和17年5月20日
日下部 彦太郎 明治24年7月	京都	機械設計法 熱 機 関 設 計 製 図	30	大正7年3月 京都帝国大学工科大学	昭和17年5月20日
平野 克己 明治38年1月	兵庫	電気機械 設計製図等	30	昭和4年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
山本 茂 明治42年10月	佐賀	電気磁気学 設計製図等	27	昭和8年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
室伏 健吉 明治27年7月	静岡	有機化学・実験・化学概論	32	大正9年7月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
松本 俊一 明治38年8月	京都	分析化学・無機化学・実験	17	昭和7年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
船越 丈一郎 明治43年6月	京都	鉱山機械工学 選 鉱 学 等	12	昭和10年12月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
久保田 敬一 明治43年12月	新潟	測量学 測量実習 鉄道工学等	17	昭和11年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日
寺門 四志猪 明治44年9月	茨城	構造力学・工場建築学等	17	昭和10年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年5月20日

曾我部 忠四郎 年 月	徳 島	数 学	18	明治41年 7月 京都帝国大学理工科大学	昭和17年 5月20日
安 達 嘉 一 明治31年10月	京 都	物理学・力学 物 理 実 験	15	大正12年 3月 東京帝国大学理科大学	昭和17年 5月20日
石 野 又 吉 明治 8年 8月	京 都	物 理 学 [理学科長]	14	明治40年 7月 京都帝国大学理工科大学 理学博士	昭和17年 5月20日
児 玉 鹿 三 明治25年 5月	和 歌 山	数 学	19	大正10年 5月 京都帝国大学理科大学	昭和17年 5月20日
関 野 彌 三 明治 9年 5月	新 潟	電気磁気測 定法・実験	10	明治33年 7月 東京物理学校	昭和17年 5月20日 (認可)
今 納 栄太郎 明治13年11月	京 都	機械製作法 設 計 製 図	16	明治36年 7月 大阪高工機械科	昭和17年 5月20日 (認可)
大 川 二十二 明治22年 5月	京 都	冶金学実験 金属加工法	13	明治44年 3月 第八高等学校甲類 第 3 学年	昭和17年 5月20日 (認可)
武 用 種 吉 明治17年 2月	京 都	臣道実践	15	明治42年 3月 広島高等師範学校	昭和17年 5月20日 (認可)
上 野 昇 明治44年 5月	京 都	武 道	20	昭和 6年 4月 武道専門学校	昭和17年 5月20日 (認可)
松 尾 團 藏 明治16年10月	京 都	武 道 [生徒主事]	20	大正 8年 3月 陸軍士官学校(大尉)	昭和 年 月 日
川 崎 司 朗 大正 4年 1月	滋 賀	教 練	12	昭和 5年 8月 任 陸軍歩兵中尉	昭和 年 月 日
永 安 登 一 明治42年 3月	鳥 根	独 語	13	昭和 9年 3月 九州帝国大学法文学部	昭和17年 6月13日
藤 谷 景 三 大正 9年 8月	京 都	実験製図	29	昭和16年 3月 立命館日満工高機械科	昭和17年 7月 6日 (認可)
大 西 清三郎 大正 5年 4月	滋 賀	測量実習	7	昭和13年 月 京都工学校	昭和17年 7月 6日 (認可)
大河内 辰 夫 明治45年 5月	茨 城	工作実習	36	昭和 7年 3月 早稲田高等工学校	昭和17年 7月 6日 (認可)

小 森 久三郎 明治33年10月	滋 賀	工作 実習	36	大正 8年 3月 中学校鑄造研究	昭和17年 7月 6日 (認可)
古 田 清 積 明治35年 6月	鹿 児 島	武 道	20	昭和 2年 ヨリ 剣道錬士	昭和17年 7月 6日 (認可)

(3) 専門学部 法・経・高等商業・文の各学科 兼任教員の部

氏 名 生年月日	府 県	担 当 科 目	授 業 時 数	* 印 現 職 名 最 終 学 歴	採 用 開 申 年 月 日
山 田 正 三 明治15年12月	東 京	民 事 訴 訟 法	4	* 京 都 帝 国 大 学 教 授 明 治 42年 7月 京 都 帝 国 大 学 法 科 大 学 法 学 博 士	大 正 15年 3月 21日
串 本 友 三 郎 明治19年 8月	大 阪	租 税 及 び 公 債 論	4	* 立 命 館 商 業 学 校 学 監 明 治 42年 3月 早 稲 田 大 学 政 経 学 部	昭 和 2年 4月 5日 (認可)
高 瀬 武 次 郎 大 正 元 年 10月	滋 賀	臣 道 実 践	3	* 本 学 法 文 学 部 教 授 明 治 33年 9月 東 京 帝 国 大 学 文 科 大 学 文 学 博 士	昭 和 2年 4月 5日
本 田 成 之 明治15年 1月	京 都	尚 書	3	* 龍 谷 大 学 教 授 大 正 2年 10月 京 都 帝 国 大 学 文 科 大 学 文 学 博 士	昭 和 4年 4月 11日
塩 崎 達 人 明治26年12月	京 都	臣 道 実 践	4	大 正 7年 7月 京 都 帝 国 大 学 文 学 部	昭 和 7年 4月 11日
山 本 保 明治40年 1月	兵 庫	英 語	2	昭 和 4年 3月 関 西 学 院 大 学 文 学 部	昭 和 10年 4月 8日
木 村 英 一 明治39年 2月	京 都	韓 非 子 時 文 簡 子	4	* 京 都 帝 国 大 学 副 手 昭 和 7年 3月 京 都 帝 国 大 学 文 学 部	昭 和 10年 5月 6日
織 田 武 雄 明治40年 6月	東 京	経 済 地 理	4	* 関 西 大 学 教 授 昭 和 7年 3月 京 都 帝 国 大 学 文 学 部	昭 和 12年 5月 25日
佐 保 田 鶴 治 明治32年 2月	兵 庫	哲 学	2	* 本 学 子 科 教 授 大 正 11年 7月 京 都 帝 国 大 学 文 学 部	昭 和 13年 6月 30日

田 島 順 明治27年2月	愛 知	民法債権	4	昭和7年7月 京都帝国大学法学部 法学博士	昭和13年6月30日
前 川 貞次郎 明治44年6月	京 都	西 洋 史	4	昭和10年3月 京都帝国大学文学部	昭和15年5月18日
室 賀 信 夫 明治40年1月	静 岡	政 治 地 理	2	* 京都帝国大学助教授 昭和8年3月 京都帝国大学文学部	昭和15年7月1日
奥 村 三 舟 明治41年1月	三 重	英 語	3	昭和10年11月 高等教員検定試験合格	昭和15年7月11日
森 重 夫 明治40年8月	滋 賀	地 形 地 質 学	4	昭和7年3月 京都帝国大学理学部	昭和15年6月14日
黒 川 修 三 大正5年7月	滋 賀	日本外交史 東亜政治史	8	昭和14年3月 立命館大学法経学部	昭和17年5月19日
元 川 房 三 大正2年5月	京 都	東亜地政学 政 治 地 理	8	昭和12年3月 立命館大学法経学部	昭和17年5月19日
原 田 季 晴 明治44年11月	兵 庫	十八史略・史 記・宝左傳等	7	昭和8年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月18日
浅 尾 市之助 大正3年8月	岡 山	国体学・憲法 臣道実践	10	昭和12年3月 神宮皇学館	昭和17年6月17日
黄 延 富 明治37年9月	台 湾	支 那 語 政 治 地 理	16	昭和4年3月 九州帝国大学法学部	昭和17年5月19日
穴 田 秀 男 明治34年2月	石 川	特 講	16	昭和4年3月 立命館大学法経学部	昭和17年5月29日
濱 田 敦 大正2年8月	京 都	国文法・言語 学・国語演習	3	昭和14年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年5月29日
中 田 勇次郎 明治38年1月	京 都	唐 詩 選	6	昭和10年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年5月29日
山 口 榮太郎 大正4年8月	大 阪	国防経済論 日本産業論 経 済 政 策	8	昭和17年3月 立命館大学研究科	(目下手続中)
飯 田 五 男 明治44年11月	大 分	民 法 商 法	9	昭和15年3月 立命館大学法経学部	(目下手続中)

松本米治 明治44年9月	京都	法学通論	4	昭和16年12月 高等教員検定試験合格	(目下手続中)
水上一久 明治45年3月	石川	国史	7	昭和10年3月 東京帝国大学文学部	(目下手続中)
大久保 莊太郎 大正2年11月	京都	支那文学・孟子・礼記等	7	昭和11年3月 京都帝国大学文学部	(目下手続中)
谷口知平 明治39年2月	京都	民法(親相)	4	昭和4年3月 京都帝国大学法学部	(目下手続中)
實方正雄 年月	千葉	商法手形	4	昭和5年3月 東北帝国大学法経学部	(目下手続中)

(4) 専門学部 工学科・理学科 兼任講師の部

氏名 生年月日	府県	担当 科目	授業 時数	* 印 現 職 名 最 終 学 歴	採用開申年月日
久羅忠夫 明治25年7月	京都	材料及び材料 試験法・実験	12	* 大阪工業研究所技師 大正5年7月 京都帝大理工科大学	昭和17年5月20日
西原利夫 明治27年3月	京都	材料力学	4	* 京都帝国大学教授 大正7年7月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
佐々木 外喜雄 明治37年8月	石川	測定器及び 精密機械	2	* 京都帝国大学教授 昭和3年3月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
長尾 不二雄 明治39年3月	岡山	内燃機関	4	* 京都帝国大学教授 昭和7年3月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
加藤信義 明治27年10月	山口	電気通信	2	* 京都帝国大学教授 大正7年12月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月5日
松田長三郎 明治26年11月	京都	電気照明及 び電熱	2	* 京都帝国大学教授 大正6年7月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月5日

安藤弘平 明治40年10月	岐 阜	電気機械	2	* 京都帝国大学助教授 昭和6年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
井上勅夫 明治42年7月	兵 庫	高周波工学 及び電子工学	2	* 京都帝国大学講師 昭和7年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
林 重 憲 明治36年8月	長 野	交 流 理 論	2	* 京都帝国大学助教授 昭和 年 月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
岡田辰三 明治28年8月	京 都	無機工業 薬品及び肥料	2	* 京都帝国大学教授 大正10年3月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月5日
小田良平 明治39年9月	滋 賀	有機合成 工業化学	4	* 京都帝国大学教授 昭和5年3月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
西原清廉 明治38年2月	福 岡	電気冶金学 鉄冶金学	4	* 京都帝国大学助教授 昭和3年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
谷口憲道 明治27年6月	三 重	採 鉱 学 鉱 山 測 量	4	* 京都帝国大学講師 大正8年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
山本 勇 明治40年4月	大 阪	分析化学 分析実験	6	* 京都帝国大学講師 昭和7年3月 京都帝国大学理学部	昭和17年6月5日
高橋逸夫 明治21年1月	岐 阜	橋土木学及 び設計製図	7	* 京都帝国大学教授 大正2年7月 京都帝大学理工科大学	昭和17年6月5日
武居高四郎 明治26年8月	京 都	都市計画 構築材料 道路工学	4	* 京都帝国大学教授 大正6年7月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
森田志郎 明治43年6月	京 都	金属材料	4	* 京都帝国大学助教授 昭和8年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日

近藤泰夫 明治28年2月	広島	耐震工学	2	*京都帝国大学教授 大正7年7月 京都帝国大学工科大学	昭和17年6月5日
小林勇 明治35年10月	愛知	施工 及び隧道	3	*京都帝国大学教授 大正14年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
石原藤次郎 明治41年8月	京都	河海工学及 び設計製図	5	*京都帝国大学助教授 昭和5年3月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月5日
奥島正一 明治44年1月	滋賀	鉄骨構造	2	*京都帝国大学講師 昭和11年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
岩井重久 大正5年3月	京都	発電水力	4	*京都帝国大学助教授 昭和14年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月5日
菊川清作 明治18年5月	京都	工作機械	2	*京都帝国大学教授 明治42年7月 京都帝大学理工科大学	昭和17年6月7日
菅原菅雄 明治29年10月	京都	蒸気缶及び 蒸気原動機	4	*京都帝国大学教授 大正10年3月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月9日
田伏敬三 明治31年11月	京都	水力学及び 水力機械	2	*京都帝国大学教授 大正11年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月9日
岡本赴 明治21年6月	京都	電気機械	2	*京都帝国大学教授 大正4年7月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月9日
羽村二喜男 明治31年11月	山口	発電所・送 電及び配電	4	*京都帝国大学教授 大正13年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月9日
櫻田一郎 明治37年1月	宮城	繊維工業 化学	2	*京都帝国大学教授 大正15年3月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年6月9日

上山 惟 恒 大正 4 年12月	鹿 兒 島	化学機械及 び 製 図	6	* 京都帝国大学講師 昭和15年 3 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月 9 日
藤 田 義 象 明治29年 1 月	京 都	採 鉱 学	6	* 京都帝国大学教授 大正11年 3 月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年 6 月 9 日
久 島 亥三雄 明治32年 3 月	和 歌 山	非鉄冶金学	2	* 京都帝国大学教授 大正12年 3 月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年 6 月 9 日
河 村 正 義 明治33年 4 月	山 口	機 械 力 学	2	* 京都高等工芸学校教授 昭和 2 年 3 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月 7 日
大 西 正 一 明治40年 4 月	京 都	電 気 法 規 電 気 鉄 道	4	* 京都市技師 昭和 6 年 3 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月10日
平 松 高 市 明治28年 1 月	愛 媛	物 理 学	12	* 昭和 3 年 3 月 京都帝国大学理学部	昭和17年 6 月10日
堀 尾 正 雄 明治38年 7 月	大 阪	物 理 化 学	2	* 京都帝国大学教授 昭和 3 年 3 月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年 6 月13日
嶺 正 男 大正 3 年11月	福 岡	無 機 化 学	2	* 京都帝国大学助教授 昭和13年 3 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月13日
池 田 総一郎 明治38年 7 月	京 都	図 学 建 築 構 造	9	* 第三高等学校教授 昭和 5 年 3 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月13日
上 井 勲 明治41年 7 月	兵 庫	電 気 化 学	4	* 京都帝国大学講師 昭和10年 6 月 京都帝国大学工学部	昭和17年 6 月13日
藤 本 武 明治36年11月	大 阪	流 体 機 械	4	* 京都帝国大学教授 昭和 2 年 3 月 京都帝国大学工学部 工学博士	昭和17年 6 月16日

久世 欽十郎 明治21年5月	大阪	機械設計 製 図	6	*京都帝国大学教授 大正2年2月 京都帝大理工科大学	昭和17年6月16日
磯松 嶺 造 明治33年8月	京都	珪酸塩工業 化 学	2	*京都陶磁器試験場長 昭和5年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月16日
岩野 俊雄 明治43年3月	京都	倫 理 学 論 理 学	10	* 昭和9年3月 京都帝国大学文学部	昭和17年6月16日
坂 静 雄 明治29年11月	東京	防空工法	2	*京都帝国大学教授 大正6年7月 京都帝国大学工科大学 工学博士	昭和17年6月22日
益 富 壽之助 明治34年6月	京都	地質学・鉱物 学及び実験	実習 28	* 昭和7年3月 京都薬学専門学校	昭和17年7月6日
福 島 清三郎 明治23年2月	京都	柔 道	12	大日本武徳会柔道 8段	昭和17年7月6日
柳 生 巖長 明治24年1月	愛知	剣 道	4	柳生流師範継義 早稲田大学高等師範部 卒	昭和17年7月6日
山 田 隆 明治28年12月	北海道	応用力学	2	*京都高等工芸学校教授 昭和2年3月 京都帝国大学工学部	昭和17年6月18日
赤 岩 六 二 明治36年1月	徳島	火 薬 学	2	*陸軍兵技少佐 大正14年 月 桐生高等工業学校 応用化学科	昭和17年7月29日
本 間 貞 亮 明治22年8月	秋 田	満 州 語	4	大正2年6月 上海東亜同文書院	昭和17年9月7日
広 瀬 又 一 明治15年10月	京 都	英 語	14	明治37年4月 東京高等師範学校	昭和17年9月7日
岩 本 国 三 大正5年11月	京 都	電 気 実 験 高 圧 工 学	2	昭和11年3月 私立電氣工学講習所	昭和17年9月9日

(立命館大学産業社会学部教授・百年史編纂室副室長)